上司や同僚を愛するとは？（下）

「愛すると決めたら、上司が変わった…」

「私たちが神様の愛流す管に」

Lightプロジェクト「信仰と仕事ワークショップ」

「上司や同僚を愛するとは？」をテーマに9月7日、東京・新宿区谷田町の貸会議室で開かれたグレースシティーチャーチ東京（福田真理牧師）信仰と仕事ミニストリー「Lightプロジェクト」（ディレクター・サックス知子）の『信仰と仕事』ワークショップ」。今回は3人の社会人クリスチャンが、上司や同僚を愛することの葛藤について分かち合った体験談を受け、サックスさんによる聖書の学び、グループディスカッション、各グループごとの発表があった。

◇　◆　◇

サックスさんは『上司や同僚を愛する』ことはとても難しいテーマ。これを創造、堕落、贖い、回復のストーリーによって検証してみたい」とし、創世記1章から、「神のイメージに造られた人間」、「堕落から影響を受けた人間の現実」について語った。

「人間は愛し合う、敬い合うといった神様を反映する者、として造られた。これがもともとの原型だが、罪を犯したことで、この世界も人間関係も、すべてが罪の影響の下に入ってしまった。クリスチャンでさえ、そのような罪の影響を受けてしまっている。自分を神の位置に置くことで、認めてほしい、愛してほしいという様々な欲求が生まれ、その欲求が神様より優先される。そして、人間関係がいびつになり、愛とは全く違う方向すなわち恐れ、支配、依存、無視という形で行動が現れてしまう」

「職場においても、上司、同僚に認めてもらいたいという願いは私たちの中にある。その心で上司、同僚と同調してしまい、ある特定の人をいじめたり、無視したりしてしまうということもある」

「そんな堕落した世界を贖うために、父なる神様は御子イエス・キリストを遣わされた」とサックスさん。「人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来た」（マタイ20・28）を引用し、「イエス様は本当にどうしようもない罪人の私たちを救って、赦して、受け入れて、贖ってくださった。どんな人間でも養子として受け入れ、神様との和解もさせてくださった。これが福音。この福音に根ざし、管となって、ほかの人たちに神様の愛を現していくことができる。職場の隣人はだれか。敵、迫害する者は誰か。上司や同僚は、隣人にも敵にもなれる。隣人になるには、神様の愛が本当に必要だ。自分自身の偶像を取り扱っていただくと共に、神様に願い、働いていただくという方法で、私たちが神様の愛を流す管となることが必要になってくる」と話した。

聖書から解説するサックス知子さん

各グループに分かれディスカッション

「私たちの仕事の目的、使命、召し」についても言及。「神様が私たちを今の職場に召されたのは、そこにいる上司、同僚に仕え、愛するために置かれたのかもしれない。だとしたら、上司と同僚との間で、愛し合う、敬い合う関係を神様が回復されようとしているのかもしれない」と語りかけた。

この後、「上司や同僚との関係でつまづきを覚えた時はどんな時か」「上司や同僚を愛するとは、あなたにとってどういうことか」「どうしたら、上司や同僚を愛することができるか」について、各グループごとにディスカッションをした。そして、各テーブルの代表が、分かち合った内容について発表した。

その中で、「上にも下にも責められている中間管理職です」というAさんが、自分の体験を証しした。「私にはモンスター上司がいて、その上司とどう関わればいいか分からなかった。祈った時、『あなたの赦しはどこですか』と神様から言われたので、その上司を愛すると決めた。どんなことがあっても、彼女と接する時は必ず彼女の祝福となれるよう助けてください、と祈った。彼女と接する時は毎回祈ってから接するようにした。1年後ぐらいから、彼女が変わり始めた。ものすごく柔らかくなり、人柄も変わった。今年初め、彼女からラインで『Aさんが愛してくれたから、すばらしい1年になりました』というメッセージを受け取った。ところが、今度は部下の一人からパワハラで訴えられた。『どうしよう』と考えていた時に、上司に相談したら、こう諭された。『Aさんは部下に対して愛が足りないのでは。部下を愛せばいいんじゃないの。それがあなたのミッションではないの？』。会社に行く前に祈り、神様にゆだねて、その日を頑張ろうという気持ちになりました」

各グループで出た感想や意見を代表者が発表した

「信仰と仕事ワークショップ」は名古屋、神戸など、全国に広がっている。次回は10月19日午後2時30分から、兵庫県神戸市中央区のマスタードシード・クリスチャン教会神戸で。テーマは「仕事は必要悪？」。参加費500円。詳細は http://lightproject.jp/ws-kobe/で。【中田　朗】